



新編

漢史始

卷之一

13
87
1



門 1
號 87
卷 1

倭漢事始序

且其事

始序

原夫萬物之始無非由理而生

理者萬物之原也達於理斯達

於萬物達於萬物則知其始亦

在其中矣是以君子之學貴明

事始序

〇一



理而達乎物也苟不如此則雖
博學而詳說所不貴也古來倭
漢之事物萬象無窮其權輿固
不可殫知然據傳記考故實而
其道理頗著見其事迹最昭晰

者不可不知其所由起也蓋人
必知其祖物必知其始此謂知
本予之家姪好古嘗於傳記之
中纂輯倭漢事物之所由始書
之以國字而欲曉民俗予一閱

之餘安書其篇端聊記歲月云

元祿丙子歲冬至日

貝原篤信書



香不可見不...

中華事始凡例



一凡天地とてに... 中華事始凡例... 劉孝孫が事始... 馮鑑が續事始... 宋高祖の事...

年ニあきしむのニとらり侍りあり事
 ねズキあきしむ侍せられニたけ編ニり
 多くシホもくく侍るもくくニ廣く幸おれ
 始ニあきしんと申し人いホシわらはしニて
 これを考へカシカラ

一 天地造化テニチガクハの始ハジメ先儒センジュは無偏ニシ區ニチクなりと
 ひととシタ衆ニヨクは君子ニシのセツ確カン實ジツなり。こ
 ろのシウりら。童蒙トウモウのシヤとくカのシヤた
 りよありし。又ソカトモカラ昔蒙シカトモカラはシヤたフデなり

あらうシぐシいシに侍るハ皆これと
 らしぬ。志シたもあシ一ニたシあもシ度
 乃始ニあきしむ侍るハ始ハジメはシヤくニ虚キヨ誕タン妖ヨウ奇キは
 病シヤ力リキをシヤ多タし。そのシヤ中ニあもシありシやシく
 一ニをシヤ深シヤまシしシとシヤもシるシもシるシ。暗カのシヤのシヤ
 とことらり侍る。識シキのシヤのシヤるシめシをシヤおシて
 ぶせかれと。童蒙トウモウのシヤ虚キヨ誕タン妖ヨウ奇キはシヤくニ遠トウのシヤひシヤん
 りシらシりシて。他シヤのシヤあシまシりシとシヤ顧コ
 り侍るのシヤなり

一 帝五人長よりきしん。凡そ人その身を
 始て記せしむ。善しあり。あり。あり。あり。あり。
 見。うれも北と。うら。うら。うら。うら。うら。うら。うら。
 あま。うら。うら。うら。うら。うら。うら。うら。うら。うら。
 らん。志のあま。た。ま。あ。うら。うら。うら。うら。うら。
 めあ。て。も。つ。の。志。後。の。代。よ。は。し。こ。り。人。の
 密と。も。な。り。ぬ。り。ぬ。り。ぬ。り。ぬ。り。ぬ。り。ぬ。り。ぬ。り。
 と。な。り。そ。め。ん。人。の。戒。の。報。と。も。あ。ぬ。ぬ。
 き。れ。ど。も。も。と。記。せ。る。後。よ。あ。ら。う。い。を。志。る。

一 して。人。人。の。性。色。と。物。の。と。
 一 や。ま。せ。も。あ。ら。う。れ。す。も。後。同。一。の。さ。
 道。の。合。せ。あ。る。と。ん。と。ま。ま。き。う。か。く。て。二。編。
 と。な。り。一。侍。る。も。り。う。ら。れ。る。の。時。は。考。ん。
 と。ゆ。も。う。ぐ。び。編。よ。う。て。と。れ。と。求。へ。し。目。
 の。な。れ。る。の。時。は。考。ん。と。ゆ。も。う。ぐ。文。和。の。
 考。よ。う。り。て。と。れ。と。考。へ。し。う。ら。う。は。考。す。し。
 考。よ。う。ら。う。り。あ。ら。う。ん。を。め。た。の。く。門。た。
 と。り。う。ら。う。て。と。れ。を。志。る。一。侍。る。その。志。が。

おまけに。志ぐく。舊キヲをなソシく。これ
 とある。美イブンをむら。び。此ココ一助トヨく。一
 取トク舎シヤハ。人ヒトの眼メよ。あ。ん。の。こ。
 一編ヒツの。ぬ。く。い。これ。あ。ま。ら。む。は。ち。り。け。志
 ぬ。す。く。り。と。も。相アヒは。い。なく。さ。め。う。ま。
 一して。織オリ者モノは。目メふ。ら。れ。屋ヤは。も。の。あ。一。あ
 ら。ぬ。志シく。さ。せ。も。一。世セは。あ。り。あ。ま。り。あ。り
 て。再マタこれ。と。さ。一。至シ蒙モウの。迷マヨは。む。く。後ノチ
 と。一。あ。り。一。吾ワレい。と。り。此ココ一助トヨの。あ。り。

中ねくせり人此奉なりんうー

天和壬戌之歳秋九月廿五日

筑前後學子月原好古識

中華事始總目

卷之一

天地門第一附郡於壤附

人倫明第二附姓諱諡附

卷之二

歲時門第三

居處門第四

衣服門第五

官位門第六

卷之三

器用門第七

寶貨門第八

卷之四

飲食門 第九

八事門 第十

文教門 第十一

卷之五

武備門 第十二

私藥門 第十三
禱事喪葬附

典制門 第十四

伎術門 第十五

卷之六

動植門 第十六

佛家門 第十七

中華事始總目終

中華事始卷之一目錄

天地門 第一

天地 一

四方 二

日月 三

星辰 四

陰陽 五

四象 六

五行 七

十二辰 八

海 九

川 十

山 十一

州 十二

都 十三
京師

遷都 十四

縣 十八

郡 十六

鄉 十七

關 十八

驛 十九

巷 二十

坊 二十一

市 二十二

井 二十三

城 二十四

郭 二十三

地里 二十六

地名 二十七

山川名 二十八

溫泉 二十九 田畝 三十六 園 三十一 圃 三十二

園 三十三 圈 三十四 池 三十八 塚墓 三十六

疆域 三十七 人倫門 第二

人 三十八 夫婦 三十九 君臣 四十 皇 四十一

帝 四十二 皇帝 四十三 天子 四十四 太子 四十五

后 四十六 太后 四十七 太上皇 四十八 太皇太后 四十九

尊号 五十 朕 五十一 上 五十二 陛下 五十三

殿下 五十四 師友 五十五 奴婢 五十六 囚 五十七

妓 五十八 ○男色 五十九 粧 六十 首飾 六十一

作眉 六十二 ○姓 六十三 改姓 六十四 氏 六十五

名 六十六 字 六十七 諱 六十八 諡 六十九

○痘疹 七十

中華事始卷之一目錄 三十一、 三十二

中華事始卷之一

後學 筑前州貝原好古編錄

天地門 第一

天地 一

天地いまだせむけがけつら時天混沌と云。混沌と云ハ長陽
一氣流
通 行とるもその久しきよ及くハその外より
カホ 結とるもその漸くは軽く清くうの中へ凝集
ラモ 然るもの漸くは重く濁く清く濁く清く濁く清く
カホ 濁く清く濁く清く濁く清く濁く清く濁く清く
ヤサキ 濁く清く濁く清く濁く清く濁く清く濁く清く

六十六 六十六
六十七 六十七
六十八 六十八
六十九 六十九
七十 七十
七十一 七十一
七十二 七十二
七十三 七十三
七十四 七十四
七十五 七十五
七十六 七十六
七十七 七十七
七十八 七十八
七十九 七十九
八十 八十
八十一 八十一
八十二 八十二
八十三 八十三
八十四 八十四
八十五 八十五
八十六 八十六
八十七 八十七
八十八 八十八
八十九 八十九
九十 九十
九十一 九十一
九十二 九十二
九十三 九十三
九十四 九十四
九十五 九十五
九十六 九十六
九十七 九十七
九十八 九十八
九十九 九十九
一百 一百

後々象をかして天と地なり。重く偏るは陰
 氣と後々散らかして地と地なり。その地天の地
 の和氣包む。旋繞く停るは地ハ天の和氣也
 て。初めかして動るは天ハ旋繞停氣と動
 おして是れあり。是れ地ハ中ノ流載せし
 るく偏るは陰と。故泊が氣年迄とりて
 の氣也 地理類編

天地の大明も。又形氣此二をなれば、
 是れ終るなり。是れは。有るは邵康節

先生ハ。理數と多くと。一元と多くとを發め
 是。一元とくは此ハ。天地の始りて終る一始終
 一と多くと云。十二萬九千六百年と云く一元と
 と。一元よ十二萬九千と十二支は配
 一と一元と多くと云。十二萬九千と十二支は
 合て一元とす。此ハ。是れハ。十二支月と合て
 一年とす。是れハ。一萬八千と一合
 と。一合二十支と云。一合十二支はす。
 一世二十年とす。一年十二月とす。一月

三十日とす。一日十二夜とす。二十と
 二十と送し月夜か人地。前六舎は息し
 後六舎を消し人。子舎の地ハ清濁の氣
 合して未より人など其氣混雑しり。其
 大姑と云。一元の地かり。是より清く
 一。又子に百を引して。子舎の中は
 極く清り氣清きなり。日月星辰の
 象を引く。大日天とあり。亦よ天ハ子
 用くと云。濁氣搏く中間まわりく
 未後結成実せ人亦よの地ありは

又子に百を引して。子舎の中は
 又子に百を引して。子舎の中は
 又子に百を引して。子舎の中は
 又子に百を引して。子舎の中は
 又子に百を引して。子舎の中は
 又子に百を引して。子舎の中は
 又子に百を引して。子舎の中は
 又子に百を引して。子舎の中は
 又子に百を引して。子舎の中は
 又子に百を引して。子舎の中は

書事始末 十一

此の中よ有て。人物多し。皆人倫あり。人倫ありて。今日迄
實よ皆人倫と云。人倫ありて。今日迄
の形は。此の中よ有て。皆人倫ありて。今日迄
謙ん。皆人倫ありて。今日迄
天地とて。後新よ地あり。天地交感ありて
亦よ皆人倫ありて。今日迄
天地の運成。會あり。天地交感ありて
亦よ皆人倫ありて。今日迄
こと。此の中よ有て。皆人倫ありて。今日迄

實會あり。又子に百ありて。實會の中に
有て。地の重濁。凝結するもの。悉皆融散
して。輕く清天と混合して。一とが有。
故よ混沌と云。清濁の氣混するもの。
亦よ皆人倫ありて。今日迄
亦よ皆人倫ありて。今日迄
亦よ皆人倫ありて。今日迄
亦よ皆人倫ありて。今日迄

さくかふまのあつり毛とるく。まじく
朱子の云紙伝。又邵子一元の既元
云よあつりさふりとありぬ。

四方ニ

五希明グ太一金鏡既よ云。じう燧人氏
始て斗極トキヨク斗斗トキヨクと見て方乃名紙色サダじ。未
為南の是也。あつり色は名ハ。燧皇より
始つられとるじ。事物紀原

日月ニ

天地のむくふ時。太陽タイヤウ精氣セイキあつまりて
とあつて八月とかり。下あつてハ火とな
れセツブンニ。日者實也。太陽タイの精氣セイキあつまりて
あつて八月とかり。下あつてハ火とぬる。
善秋カンセイ感精カンセイ符云。月大陰イ精セイ又善秋くしてぬ。元氣ゲンキよ
元命ゲンメイ苞云。大法水セツ精セイ高月。
あつて流リウ切カクしてやまぬ。そとハ今陽ヤウ
燧スイとく日よじひてハ火とぬ。方ハタ法ホウとく
月よ白ハクひてハ火とぬ。あつてハ火とぬ。月を
あつ。日乃太陽タイヤウ精。月の大法イ精セイあつりて

陰陽の變化イニヤウ且ナキ奇氣キキの所トコロあり。天地の居
 の所トコロ一也ヒトも陰陽イニヤウ此ココをカありル化イハルハカり
 一ヒトとシテ造化サダクハの四ヨ就ツクるル時トキハカ。其ソノ神シ氣キ
 云イハ信シ乃ノ及ツ而シテ亦モありキるル所トコロあり。純ジュン白ハクよ。
 梁リヤウ任ジン勝シヤウが述ジツ吳ウ紀キよ。むム一ヒト一ヒト變ハ古コ氏シの死シ
 其ソノ時トキ時トキ改カハカ日ニチ岳ガクとシり。月ツキハカ日月ニチツキとシり。
 脂シ膏カウハカ江コウ海カイとシり。毛モ髮カミハカ髮サキとシり。
 浮ナミタとシ江コウ海カイとシり。氣キハカ化カセとシり。聲コエハ

雷イカクチとシなり。目メ腫トウハカ電デンとシり。喜ヨロコブとシ時トキとシり。
 怒イカレとシ陰クモルとシとシ也ナリとシり。比ハ象セツ統トウ也ナリとシり。夫イ夫イ
 学ガクハカ先ト聖ライ回トクとシてシまシんク。海ノ合クハ一ヒトとシり。
 且ナにカ信シ乃ノ及ツ而シテ亦モありキるル所トコロあり。とシてシ信シ
 盤バン古コ主シュの所トコロあり。却カてシ陰イニ陽ヤウ造サ化クハの
 妙ミョウ用ヨウハカ一ヒトとシり。其ソノ用ヨウハカ一ヒトとシり。其ソノ用ヨウハカ一ヒトとシり。
 孩ガイ兒ジハカ孩モ子カとシり。其ソノ用ヨウハカ一ヒトとシり。其ソノ用ヨウハカ一ヒトとシり。
 色セ化カハカ赤ベニ白ハクとシり。其ソノ用ヨウハカ一ヒトとシり。其ソノ用ヨウハカ一ヒトとシり。
 張セツ紙シ作ツクてシ口クチとシり。其ソノ用ヨウハカ一ヒトとシり。其ソノ用ヨウハカ一ヒトとシり。

て世よめせらるる。造云乱民の二刑とあり

星辰

漢天文志北極の云。黄帝星次を命らた
まふ。礼記よ云。帝嘗く、星辰と席始
ひぬ。云云よりして見まじ。史記始く
星辰と。黄帝又云と名流け。帝嘗
よめてその席をおせらるる。劉

補漢志よハ。黄帝星次と云めありと云
む。十二次二十八宿は度みか黄帝よりこれを

紀ある

凡そ乃星かりん不られ。星ハ色氣は乾
の如し。後氣の力。完耀と云ふの
と云。二十八宿及星是也。於此
こゝより星は

一、そのまゝの...
 二、凡そ人地乃土を...
 三、星辰の...
 四、...
 五、...
 六、...
 七、...
 八、...
 九、...
 十、...

陰陽

易繫辭云。易曰大極あり。これ其極を生
 す。...
 大極と云。天地未だ分るる前の極を指す。
 ...
 ...
 ...

地のる元氣は純淨と云くはこころい
て天命は流りして上より今日にい
き済ませる所は元氣のあり

四象 六

少陽。太陽。少陰。大陰。これと四象と云ふは
夏秋冬の氣ありて。陰陽のありあり。
又物と云ふは象と配して其象をとらるり。
そ實ハ又の氣ハ四象あり。有るは易の
とらるり。大極陰陽四象を多く。又の
少陰。

五行 七

史記曆書より。黃帝又行と建五
又部を起す。金木水火土也。五
が。天は日あり。天の始ハ一氣あり。莊子の
草木子より。天の始ハ一氣あり。莊子の
氣調順降是也。その是するの氣は
あり。先か後か。あや中。此澤濁威
とゆふ。さすて。換て。とこれ。

出。洗のふふ川と名。流よふ川に飛り
 波浪の勢あり。こゝよたのやう土に割を
 ちのふとぬく金せし。出れ柔かなるを
 の本はせし。本又出れ生れ又切りすをよ
 それらり。すかつらあ物生れ。あ物化
 せして変化極れ。好古極とらふ。大
 極陰陽を生し。陰陽又行を生れ。故よ
 又行の天地後成色てよりそ初用あり。

十二辰 八

帝の時より。その名をまゝあり。

事取よ。黄帝子五十二辰と云く。以て月
 子名つけ。又十二名歟と云て。これよ属と
 十二支よ十二獸と属する。

海 九

論語摘輔象よ。伏羲乃六位仲紀と云
 人海陰と云さむ。海よ。年地をまゝり。か
 て海とす。陽と云人海と云さむ。海り云

う名致とせぬ。心各致さるるてはるるをて。此
て心海を并けりとりるるをて。此

九列 十二

書よいそく。人を始て提沈此承より出
て九列よとと。九圍とん。九圍ハ分九人
を中列ととと。九列と名流るる此
始なり。

都 京師 十三

親名よ田。承乃長り取致と云。帝世

紀よ大異陳よ都一多りとあり。これ始と

称ずるの始也。三代よりこの。夏よ六邑

と云。商周よ八系師と云。系ハ大なり。昨ハ

流也。大流のも皆不才所あり。天子乃此を

系作と云。

遷都 十四

殷乃河亶中。河此決るよよりて。都と相

よら。祖シハ秋より決り。終虞ハ殷

より決り又毫よより決り。武シ又河小

よりつ。こ都とつせせさる。か也。古今事考

縣 十八

周礼よ。四甸と縣とに。史記秦本紀よ。司。孝云

十二。後乃小郷と養て聚て縣とに。商

君の傳よ。高鞅邑と聚て縣とに。し。じ。

あつ。は。縣と名流る。此始。秦孝云。しり

り。又陸は云。切顔よ。楚在。と。陳

の。名。威。して。は。縣とに。縣乃名とれ

り。し。事。お。紀。尔。下。回。

郡 十六

秦始皇二十六。初。天下。分。養。せて。侯。と

や。め。て。ち。と。始。て。二十六。郡。と。分。て。史。記。よ

云。秦。の。東。周。と。滅。して。始。て。三。川。郡。と。至。て。又

云。天子。の。比。ハ。お。子。里。分。て。五。縣。と。に。一

縣。直。に。郡。あり

郡。十七

周礼よ。六。甸。の。は。く。軍。政。と。か。ん。と。あり。注。よ。比

周。族。黨。別。郡。と。六。甸。と。云。比。色。ハ。お。郷。と。周

の制也。開十八

周官司花の屬は司園也。又下士三人所

司。これハ今ハ志ノ事也。實ハ周ノ制也

圃ノ制也。圃ハ今ハ志ノ事也。實ハ周ノ制也

圃ノ制也。圃ハ今ハ志ノ事也。實ハ周ノ制也

圃ノ制也。圃ハ今ハ志ノ事也。實ハ周ノ制也

圃ノ制也。圃ハ今ハ志ノ事也。實ハ周ノ制也

圃ノ制也。圃ハ今ハ志ノ事也。實ハ周ノ制也

圃ノ制也。圃ハ今ハ志ノ事也。實ハ周ノ制也

圃ノ制也。圃ハ今ハ志ノ事也。實ハ周ノ制也

圃ノ制也。圃ハ今ハ志ノ事也。實ハ周ノ制也

圃ノ制也。圃ハ今ハ志ノ事也。實ハ周ノ制也

圃ノ制也。圃ハ今ハ志ノ事也。實ハ周ノ制也

圃ノ制也。圃ハ今ハ志ノ事也。實ハ周ノ制也

圃ノ制也。圃ハ今ハ志ノ事也。實ハ周ノ制也

圃ノ制也。圃ハ今ハ志ノ事也。實ハ周ノ制也

圃ノ制也。圃ハ今ハ志ノ事也。實ハ周ノ制也

圃ノ制也。圃ハ今ハ志ノ事也。實ハ周ノ制也

圃ノ制也。圃ハ今ハ志ノ事也。實ハ周ノ制也

さしきしど。祝融と治じとす。まらんを
と男エキの尻よまらふ。黄帝クハラテイよりくま
れを乞ふ人

井イ 二十三

淮南子ワイナニよ云。伯益ハクエキ井と化れ。汪チウり。益エキ舜シユンと化
く。初ハジメて井イ化れ。世セイ本ホン呂氏リョシ表シユニシウ杖シウ九クよ伯
益エキ井イ化れと云。世セイ本ホンよ又云。黄帝クハラテイ始ハジく井
と穿ウガり。周シウ云シヨふも又黄帝クハラテイ井と化れ始
なりと云。

城シヨウ 池チ 二十四

軒轅ケンエン本紀ホンキよ曰。黄帝クハラテイ涿セイヤ邑ユウと築キツき。又涿セイヤと造
れ。黄帝クハラテイ内ナイ化れと曰。帝テイとて以レ蚕シユウ衣ユウ化れと云。
少昊シウコウ子シ周シウて涿セイヤと築キツく。史シ記キり。方ハク士シ漢カン
武帝ブテイよ云。一イチて曰。黄帝クハラテイ又涿セイヤ化れと
あり。涿セイヤとハ涿セイヤハ黄帝クハラテイより始ハジり。漢カン云シヨあり。
神シム農ノウの教キョウ也。石シヤウ涿セイヤ才サイ奴ヌ。湯タウ池チ百ヒャク歩ポあり
と云。城シヨウ池チ化れも黄帝クハラテイより始ハジり。又呂リョ
氏シ表シユニシウ杖シウよ曰。夏カ鯀コン涿セイヤ化れ。汪チウ子シ涿セイヤ郭クワクと

漢書地理志

卷之六

樂土也。也とあり。邑味郭也始也

郭 クハク 二十又

吳越春秋曰。縣味と樂ていよく

郭と造りて民とちり。元していて味

郭乃始と人。世本少と又云。縣郭と

按しは軒轅本紀。黃帝味邑と樂

との色く。縣ハ味と行りてあり

と行りてあり。

六地里 一里二里

春秋命曆序云。作農氏地

海と甄度と。東西九十万里。南

あり。志の色く則。帝より始り

也。淮南子云。万民喜と堯と

と。さよちのく天下ハ

て化せり。道里乃郭の事。陶唐氏

元。有道と也。黃帝内傳。元里

里數ハ帝より

地名 二十七

地望の時よきまじり人々也。地也忘よんる
三ノモト 源よ石流英ありてハ其泉則温也といふり。
イソミ 凡地中ハ陽脈乃凝る下。湧泉温暖なり
ヤラキ 之陽氣をうりて病病と療すふまうり
 天地よりきてより故おのづからもあはれ
 の久し漢武故事よまうりてあはれ
 温泉乃上りて泉をまうりてあはれ
 より
コサノ 雞組よ云。大凡温泉は
ヒキ 磐石あり。蓋天地の陽
カミ の精の結るなり

田畝 三十

詩疏よ云。易繫辭より。作農畝く報と化より
ハシメ 夫帝始く歩を多く畝を制と云うも心
ウチ 田畝と云ふハ中教よりハ。軒轅よりかこ
ハシメ 一圓 既又ハ果と云ふ
ホソク 韓詩外傳よ云。英帝ハハ。鳳鳥ありて帝ハ
ホソク 圓より止り。阿谷よりと云ふとありて
ハシメ ぶらぐハ圓の名。これを始とする人

二 圃 ハシ 文よえ荒とらゆ

在子よ。黃帝の圃とあり。こころよくハヒ

圃の名は始からん

三 圃 セツブ 禽獸を養ふ

項峻が伝書よえ。人を九列とわく九圃と

ハヒこころよくハ圃の名は始からん

四 園 クワ 羊豕を養ふを園と云

召康公劉とあり。苑と牢と執と云。牢

の名こころよくハ圃の名は始からん

ハ名ハ漢代よと云。

池 イケ 三十一

黃帝内傳よ。帝すてよ。蜜かところ

て天子とあり。こころよくハ圃の名は始からん

とあり。代昭の紀ハこころよくハ圃の名は始からん

塚墓 ツカボ 三十六

黃帝内傳よ。帝。蜜心を新と。因て塚墓

とあり。こころよくハ圃の名は始からん

代犧女鳩の塚と紀ハこころよくハ圃の名は始からん

乃陽氣也

疆域 三十七

九區とくわら。兄弟の

人かのノノ一房はつれこけ。疆域乃名なり。

今乃非

てるも

漢書

漢書

〇八倫門 第二

形貌 修飾 附

人 三十八

易繫辭よ云。天地網緼の交密くして。形物化

醇。本義よ云。醇ハ厚くして。穀と男女精と撮て

おわ化せし。本義よ云。飛

凡あわろせし。氣化飛化と云る。あり。

氣化し。人ハ新くして。交服と云る。よ

目と冷くす。久くして。垢づきけがれぬ。是ハ

養風を。或改發よ。氣生し。堯中に

相と生キウ。あざと生キウ。魚ウナギと相ウナギの生キウするた
 ぐひツボ。乞キ氣キの化キしてそのものを生キウ
 氣キ化キと云。飛ウイ化キと云。衣ノミ子シの衣シ衣シ衣シ衣シ
 相ウナギの類。一キ乞キ氣キと云く化キしては。衣カ子ラ
 化キせは。男カ女チの飛カ交チりて種シユ生セと。乞キと飛ウイ化キと
 云。天地チ乃チ始シ業ノ物ノ此コ生セず。ハ皆キ氣キ化キなり
 云て不カ飛チとて反カハ。飛ウイと云ておゆつりて飛キ
 化キあり。飛ウイ化キと云てお氣キ化キ漸シヤがとろふ。衣カ
 子ラの相ウナギと氣キ化キなり。衣カ子ラの相ウナギ化キす。衣カ子ラ

衣カ子ラと云一キ海ウミ乃チ湧ユ出デする衣カ子ラ。飛ウイく
 業キ本キ生キ。土チをて業キ本キの生キず。衣カ子ラハ。衣カ子ラに
 衣カ子ラと云。すて業キ本キあり。衣カ子ラハ。衣カ子ラに
 衣カ子ラと云。衣カ子ラ。天チかり地チと云。衣カ子ラ
 衣カ子ラ。人チの中チる。衣カ子ラ化キす。一キ乞キ氣キ化キ
 して後キハ。飛ウイと云く交キて飛ウイ化キ。衣カ子ラ
 衣カ子ラ。今チ蟲ウ魚イハ。衣カ子ラす。衣カ子ラの衣カ子ラ化キ
 衣カ子ラの衣カ子ラと云。衣カ子ラと云。衣カ子ラと云。衣カ子ラ
 衣カ子ラの衣カ子ラと云。衣カ子ラと云。衣カ子ラと云。衣カ子ラ

夫。さ。は。た。た。の。理。と。ん。く。さ。は。と。考。ハ。た
 の。だ。り。も。迷。と。ひ。く。趣。し。ま。あ。お。お
 の。く。その。始。ハ。氣。化。ナ。リ。と。い。ハ。た。中。あ。と
 人。ハ。あ。お。お。と。終。と。又。終。の。秀。氣。と。又
 始。て。天。地。の。信。明。純。潔。の。氣。と。り。生。ず。る。也。
 氣。マ。人。の。神。ハ。天。地。の。貌。マ。似。し。改。メ。あ。る
 ハ。天。り。象。也。是。此。方。が。信。ハ。地。マ。く。い。と。る
 小。天。地。と。も。い。ん。天。命。と。更。て。性。と。又。亨
 此。海。氣。と。り。人。又。備。の。道。と。行。ハ。と。も。と。ま。

本。ハ。氣。あり。て。智。ホ。く。禽。獸。ハ。氣。あり。智
 あり。大。義。ハ。人。ハ。氣。あり。智。あり。又。義
 あり。その。氣。ハ。方。あり。也。と。天。地。人。と
 よ。ら。と。て。二。方。ハ。佐。せ。り。志。の。是。大。庸。ハ
 五。事。ハ。中。と。も。と。れ。ハ。性。マ。智。マ。義。マ。た。が
 ひ。て。禽。獸。と。も。と。れ。と。也。一。也。一。也。一。也。一。也。一。也。
 と。心。と。く。死。ん。だ。の。と。多。く。と。あ。り
 人。ハ。身。と。性。と。一。也。一。也。一。也。一。也。一。也。
 也。と。あ。あ。の。靈。長。き。る。也。理。マ。も。

夫婦 二十九

杜氏通典曰。燧皇氏始く夫婦あり。

臣の云。人皇をたたり。

君長 四十

典略よ云。孫贖が表よ云。皇義よりこのし。

路て君長と下りしことり。これよ

りしことと推し。天皇よりこのし。

りかありしこととも固よ又略あり。大異

。いして始くこれを行ひ

皇 四十一

項峻が始学子第よ云。天地立て天皇あり。性情

が帝系傳よ云。天地始れて。眞降鴻蒙をり

則天皇を生れ。治世一万余年あり。天皇と

稱するは始也

帝 四十二

天皇より燧人よむし。天皇と稱はるよ

天皇人皇あり。大異し。稱して帝

儀氏と云。帝王世紀にありては、テ帝と稱するの

も、シめ也

皇帝 四十二

史記に、秦天下を兼て、皇帝の号を建はす。
又帝の号、その徳に及ばざれば、
ひて則、クと稱せしむ。之を又その徳に
及ばざれば、クと稱せしむ。秦
始皇の号、その徳に及ばざれば、
と稱せしむ。天子兼て皇帝と稱す。

天子 四十二

祝文に云、いみじくも神聖人の母、天子の感
て、子に成り、テ天子と云。春秋元命苞
に云、女登子成、シ人面、シ顔、ハ始て
天子と成り、テ帝王世紀に云、シ帝、ハ天子の
子と稱す。又、シ帝、ハ天子の
稱す。曲礼に云、シ天子、ハ天子の
と云。又、シ白虎通に云、シ天子、ハ天子の
と云。天子の号、シ天子と云。春秋感精符に云、

漢書卷一

世五

太后 曰十六

三代よりと流し、太后乃稱オ、

紀と云。周人始く王后と云。秦乃時。天子と皇

帝と号す。太后乃時。太后と皇后と云。漢乃時

紀と云。漢王皇帝乃後より流く。王后乃

号して皇后と云。これ皇后と稱す。始也

太后 曰十七

史記。秦本紀と云。昭襄王代母苻氏。宣太后と

号す。太后乃号す。秦昭王より号す。太后

漢ハ秦より流く。太后乃皇后と云。

太后 曰十八

太后 曰十九

秦昭王代母苻氏。宣太后と

号す。太后乃号す。太后

漢ハ秦より流く。太后乃皇后と云。

太后 曰十九

太后 曰十九

秦代母苻氏。太后乃号す。太后

太后 曰十九

十一

て漢の時ふわり祖母と考くを皇太后と
云ふ礼ハ漢より一由るといふも。あま
あつたは孝成より始り

孝成 又十

項俊が名を篇よ云。天地をく天皇あり。号

して天靈と云。帝主を号代也。あま

朕 又十一

朕ハ我也。朕が代るはさして朕と云。古ハと

下たよ画下してこれと称と史記よ云。李斯

戮すく。天子自稱して朕といふなり。

これよりしてわ漢たよ。今よ。あま

史記 又十二

司馬遷史記と傳り。考くよとて云

いつたよとといふ。大史よ。自叙よ。漢武帝

乃ち叙して今と云。此類也。今下又

天子自稱してと云と司馬子長より

ト

陛下 又十三

漢書紀傳 卷之九

周よりありて天子は天子に下と稱すは

史記云。秦李斯の故城に於てこれと稱

す。陸は天子と稱す天子ハ必を天子の位

に在て不虞と戒む天子ハ天子に天子ハ

天子に下と稱す天子ハ天子に天子ハ天子に

天子に天子に天子に天子に天子に天子に

天子に天子に天子に天子に天子に天子に

天子に天子に天子に天子に天子に天子に

殿下 又十臣

漢よりこののの皇太子は天子に天子に天子に

漢よりこののの皇太子は天子に天子に天子に

漢よりこののの皇太子は天子に天子に天子に

漢よりこののの皇太子は天子に天子に天子に

漢よりこののの皇太子は天子に天子に天子に

漢よりこののの皇太子は天子に天子に天子に

漢よりこののの皇太子は天子に天子に天子に

師友 又十人

帝舜は天子と天子に天子に天子に天子に天子に

作^シ成^ヲを求^ム所^ニありては^レ人^ノ也^{ナリ}。今^レ亦^レ始^メ

奴^ヌ婢^ヒ 又^マ十六

後^キ文^ノよ^ク奴^ヌ婢^ヒハ^レ古^ク也^{ナリ}。偏^ヒ治^ス一^ニ也^{ナリ}。其^レ

を^レこれ^レが^レ奴^ヌ婢^ヒの^レ周^ニ孔^ニは^レ女^ノ矣^{ナリ}。其^レ

ハ^レ之^レ代^リに^レ奴^ヌ婢^ヒ乃^チ号^スありん^ト。事^ヲお免^ス京

囚^ウ 又^マ十七

罪^ノを^レ獄^ニに^レ送^ルは^レ法^ニに^レ依^リて^レ也^{ナリ}。囚^トと^ス云^フは

其^レの^レ名^ニ也^{ナリ}。叔^ノ同^ノ如^ク臯^ノ陶^ノ在^リ洋^ニ獄^ニ囚^トと^ス也^{ナリ}。

奴^ヌ婢^ヒの^レ名^ニ也^{ナリ}。今^レ亦^レ始^メ

奴^ヌ婢^ヒ 又^マ十八

い^ハし^テ人^ノの^レ奴^ヌ婢^ヒハ^レ漢^ノ武^ノ帝^ノ始^メて^レ常^ニ也^{ナリ}。

を^レ解^ク。其^レ軍^ノ士^ノ乃^チ素^ニか^レん^トの^レと^ス也^{ナリ}。

い^ハし^テ人^ノの^レ奴^ヌ婢^ヒハ^レ漢^ノ武^ノ帝^ノ始^メて^レ常^ニ也^{ナリ}。

男^ヲ色^ヲ 又^マ十九

男^ノ文^ノ乃^チち^レり^ハ。伊^ノ訓^ニは^レ也^{ナリ}。婦^ノ乃^チ婦^ノ也^{ナリ}。伊^ノ訓^ニは^レ也^{ナリ}。

比^ニ頭^ノ童^ノ乃^チ戒^ム也^{ナリ}。比^ニ頭^ノ童^ノ乃^チ戒^ム也^{ナリ}。比^ニ頭^ノ童^ノ乃^チ戒^ム也^{ナリ}。

比^ニ頭^ノ童^ノ乃^チ戒^ム也^{ナリ}。比^ニ頭^ノ童^ノ乃^チ戒^ム也^{ナリ}。

比^ニ頭^ノ童^ノ乃^チ戒^ム也^{ナリ}。比^ニ頭^ノ童^ノ乃^チ戒^ム也^{ナリ}。

始久一。去のれた。これを乱風といひて
 右人これを戒まらり。されハ孔子も宋
 牝が災あらしむ人バ。今乃世ふまぬるを
 きーそー。己まなり。衛國乃かさあ
 ざり。ハ。弥子瑕が成よあらずや
 を懲りて。ハ。僕も組乃武りりも。藉籍
 の政と云り。又迷て改り。帝ハ因陽が災を
 乃成るく。考に觀外をたひ。又帝ハ三
 代より乃の賢者なり。うども。そのを

一。始一。鄧通がなりて。乃延り。孔
 と考り。哀帝ハ董賢と。鄧通の能を
 して。乃をさゆまけ。世にうりぬ
 乃のめ。乃のぬく。乃の復幸乃は
 え乃をど。い乃のけ。乃のけ。乃のけ
 略しぬ。又ハ。郭組乃の乃ハ。晋乃の乃
 風乃の乃。咸寧乃の乃。乃の乃。乃の乃
 乃大乃の乃。乃の乃。乃の乃。乃の乃
 又これと乃の乃。乃の乃。乃の乃

倣倣て。夫婦 離散し。辱しとすれば怨
 腹を中するより。家の世より。道学
 盡し移り。少の衰ぬ。今や 雄張
 ともかげり。とて。玉と破け。城は破
 り。女色より。ふみ。あつ。は。あ
 我園策。美男 破。と。後者
 乃曰。男。と。て。ハ。毛。人。の。後。も。は
 月ひぬ。あり。と。破。ふ。り。や。は。は
 く。かん。が。り。の。如。く。男。ら。は。後。も。は
 毛。は。溺。し。も。は。と。は。う。り。か。は
 天下。と。て。り。る。歴。史。り。記。せ。り。前
 脱。れ。り。後。も。は。と。て。我。は。ハ
 け。遠。り。

粧 六十

周の文王の時。女人 粧。と。か。ん。今。概。ず。ら
 する。粧。と。秦。始。皇。の。宮。中。悉。く。粧。と。か。ん。今。概。ず。ら
 を。か。ん。粧。の。始。也。事。お。記。系。又。男。子。は。粧。と。か。ん。今。概。ず。ら
 後。の。ハ。前。漢。書。傳。幸。傳。は。後。漢。書。傳。幸。傳。は。後。漢。書。傳。幸。傳。

世紀よ。大異の所よ。と。庖犧氏の所也とあり。易類是孫よ。炎帝徳氏吹と。姓よ。世にむとり。くく。姓ハ大異より。ト。さして。炎帝姓と。名め。みと。り。ハ。世に。用て。姓と。賜。凡。姓。人。事。帝。堯。の。時。稷。と。師。封。して。姓。氏。姓。と。賜。契。と。高。封。して。姓。氏。子。と。賜。益。を。封。して。姓。氏。贏。と。為。よ。と。姓。と。為。よ。の。始。也。古今多姓

秦改姓 六十四

漢高祖婁敬を封じて建信侯とす。姓を改めて劉氏と為す。と。改姓の始也。古今多姓。楊。子。也。楊。の。後。よ。也。古。ハ。世。小。周。て。姓。と。賜。よ。也。も。生。ず。り。不。れ。地。小。り。て。姓。と。人。よ。姓。氏。楊。氏。万。世。也。後。胤。の。姓。と。か。こ。ひ。と。子。孫。ハ。万。世。也。と。各。姓。と。姓。と。す。一。か。と。し。日。姓。氏。ハ。婚。を。法。ぶ。り。と。ひ。り。と。と。ど。婁。敬。が。姓。と。ハ。と。姓。祖。より。也。婁。姓。あり。

字 六十二

孔記也。冠して字は。その名を殺すの事也。
とより。帝王世紀よ。少皞帝。名ハ執事。字ハ
高陽とある。時ハ。則金天氏より始て。少皞
迄ハ。孔子人。

諱 六十八

諱ハ周より。孔子人。

諡 六十九

孔記よ。死して。諡は。孔子人。

子傳よ。天子盛時。孔子人。

え。孔子人。

ハ漢も。孔子人。

七 痘疹

病名多し。孔子人。

痘ハ。孔子人。

時。孔子人。

あり。孔子人。

組。孔子人。

ハ。孔子人。

中華事始卷之一終

Handwritten text in cursive script, likely a continuation of the calendar or festival list from the adjacent page.

中華事始卷之二目錄

歲時門 第三

甲子カツレ 一

歲サイ 二

朔シヨク 三

月朔ツキシヨク 四

元日ゲンニチ 慶賀ケイカ 又

人日ジンニチ 六

十日ジュウニチ 食粥シヨク 七

秋アキ 奠テン 八

上巳ジョウジ 九

曲水キョクスイ 宴エン 十

端午タンゴ 十一

競渡ケイタツ 十二

伏日フクニチ 十三

七夕セウシツ 十四

中秋チュウシュウ 賞月シヤウゲツ 十六

冬至トウジツ 十七

臘日ラツニチ 十八

土牛ツキウ 十九

驅傩クワン 二十

正五九月テイゴクツ 廿一

居處門 第四

宮 九二
殿 九三
堂 九四
宅 九五

廟 九六
生祠 九七
樓 九八
欄 九九

齋 三十
廊 三十
屋 九二
廟 九三

庫 九四
倉 九五
亭 九六
臺榭 九七

門 九八
獄 九九
廁 九四
階 九六

墻 九二
庭 九三
藩籬 九四
橋 九五

浮橋 九六
鴉吻 九七
厩 九八
行馬 九九

衣服 第五
布帛 采色 附

冠 五十
冕 五十一
弁 五十二
簪 五十三

纓 六十四
頸巾 六十五
衣裳 六十六
袷 六十七

被 六十八
襦 六十九
雨衣 七十
蓑衣 七十一

腰帶 七十二
袴 七十三
魚袋 七十四
笏 七十五

鞞 七十六
履 七十七
屨 七十八
展 七十九

纒 七十八
附布帛 七十九
錦 八十二
繡 八十三

纒 七十九
五采 八十
錦 八十二
繡 八十三

官位 門 第六

爵 七十六
官 七十七
品秩 七十八
諸侯 七十九

別 八十
太守 八十一
三公 八十二
左右相 八十三

宰相八十日 大將軍八十八 將軍八十六 諫官八十二

教仕八十八

...

...

...

...

...

...

中華事始卷之二目錄終

中華事始卷之二

八歲時門 第三

甲子一

世むよえ。大撓甲子と遠る。呂氏春秋よ曰。黃

帝大撓と師と。多ふ。黃帝内傳よえ。帝として

小虫尤をきり。大撓よ命して甲子を遠る

めて時を正し。多ふ。月令章句よ曰。大撓五行

の信をさぐり。中。大撓の指所と云。くよふめて

始て甲しと化て双て目よ名をく。さしと幹

と云子世を化て月ノ夜はく。されと枝とを
枝幹お配して以て六面をあら。事物紀原の是
ハ支平の支帝。古今原始ヨ曰。天皇氏十干と以て
一より始し。十二支を以て時辰をせ。好古堂記用。十
二枚十幹。干支の多分
月記ハ他とわり。

歳二

黄帝星曆と乞め。周禮を正して。養子と聲め
あ。堯よきて。四時と乞て。歳とカせり。事物紀原

閏三

史記よ云。黄帝消息以起。周禮と正し。あ。則宣ハ
修分の月也。黄帝曆と違て。始て。あ。と正しり。
事物紀原の書經の堯典よ。以望月定四時。成業
とわり。堯のハ。修分の月也。これを始とす。

月朔四 望ハ十五 月の朔也

通曆よい。地皇氏昼夜とつら。三十日と以て
月朔と云。事物紀原。古今原始よ云。地皇氏朔ヨ以
て。三十日と以て。一月と云。十二月と以て。一歳と
せ。是朔をの始也。

元日賀賀 玉

元日賀賀 玉

通典云。漢高祖。十月。秦を克じ。遂に秦首を斬る。七年。長樂宮成。して。群臣の賀。乃。侯。侯。制。を。武。帝。改。て。正。を。用。ひ。寅。の。月。を。以。て。歲。首。と。し。た。され。た。元。日。の。考。定。も。也。漢高祖より。た。い。は。事。お。紀。原。下。同。の。今。考。を。ゆ。ふ。寅。の。月。は。正。月。と。し。て。元。日。と。賀。す。る。は。漢。武。帝。より。お。こ。し。た。

人日六

東方朔が云ふ。正月一日。雞。と。し。二。日。狗。と。し。三。日。羊。と。し。四。日。猪。と。し。五。日。牛。と。し。六。日。馬。と。し。七。日。人。と。し。八。日。穀。と。し。九。日。豆。と。し。十。日。明。温。と。し。十一。日。日。則。其。お。憂。息。女。秦。は。候。と。し。陰。を。慘。烈。か。れ。た。疾。病。を。絶。乃。兆。と。し。夜。を。終。の。お。も。み。く。れ。か。し。と。し。と。推。せ。し。漢。乃。也。り。始。て。を。義。め。ん。と。し。杜。子。養。が。詩。云。元。日。初。入。日。未。有。不。陰。時。邪。愛。彌。く。強。よ。占。書。と。し。て。元。日。より。八。日。ま。て。晴。ま。ハ。初。の。膏。す。り。も。成。つ。る。と。し。ん。と。し。時。の。災。わ。り。と。し。り。一。年。の。始。な。れ。ハ。初。も。あ。れ。る。と。し。や。但。多。日。晴。ま。ハ。その。お。膏。す。り。と。し。て。元。日。より。日。こ。よ。その。属。せ。し。禽。獸。を。乞。め。ぬ。と。し。ハ。

漢事始末卷二

言よらんらん。

十五日食粥七

續齊諧記云。吳縣の張某と云ふもの。表起て一
ぬ人の宅れ東南の角よ。三少少以奉て張某と振
くと見れ。張某則そあよと心。婦人の曰。此ハ乞
某が家の蠶室なり。ふこふ。我々乞乞此地此也
的年正月申よ。白粥と作り膏とよ。ううて我
と糸のへ。必まう蠶桑をして与信あう。

しへしとらひ終てうせぬ。此某その云れ妙くあり
て。膏粥と化てそれと糸うう。そのうら大よ
蠶桑の利とゆきり。今正月申よ。白膏粥と化
ゆきうらう。まねる。又世所記よ。正月十八日
小豆粥と煮て天狗糸をかひ。庭中に棄て置。そ
と小粥とそれ魚うれ粥。蝦時。東方よ。白ひ。再ねと
既してそれと服とれハ。年中疫氣ありとあり。
續齊諧記。世所記。亦此。佐佐木。一。佐々木あり
き。燭室典よ。正月十八日膏粥と化く

續齊諧記

下

事コト。尚書コト部部東哲東哲とんとと聞聞ていい
 く。執執虞虞小小也也。人人ぞああれとああらんらんや。びびりり周周
 公コウトトしてして後後邑邑ととすす。流流ああららししてて危危ととららふふ。
 成成小小遂遂侍侍よよいいくく。羽羽觴觴流流波波。又又秦秦始始昭昭五五三三月月
 上上巳巳のの曲曲酒酒宴宴せせしし。金金入入ありりてて面面ららいいててああ
 公公劍劍とと拔拔くく。いいくく。君君ととしてして西西夏夏とと制制有有心心。
 ししめんめんととああれれしし。因因ててたたててしし。曲曲ああららししてて前前漢漢はは
 僕僕たたししおおかかつつてていいくく。盛盛ららしし。帝帝れれいいくく。かかんん
 ららくく。公公練練しし。長長くくてて。金金六六十十斤斤とと東東哲哲にに賜賜ひひ。
 舞舞虞虞とと危危遷遷ししてて陽陽城城のの令令ととんん。續續齊齊魯魯紀紀

今今按按とといいふふ。東東哲哲がが後後理理あるるふふ。似似ししるることこと
 也也。是是又又一一時時乃乃附附會會ししてて位位すするるよよききことこと。
 鄭鄭のの國國にに俗俗。三三月月とと巳巳日日菊菊ととああららししてて不不祥祥をを
 被被除除すす。俗俗にに傳傳ははるる。鄭鄭のの俗俗ににああららししてて書書まますす。所所にに
 俗俗ににああららししてて傳傳ははるる。出出つつたた。其其のの始始久久ししるる
 りりかかつつたた。

端午 糝 十一

屈原屈原 楚國楚國のの五月五月五日五日ももららししてて汨汨羅羅にに投投してして死死せせ

漢書卷之二

楚人それとあはれして。げ目小むる毎。竹筒の
中に赤飯野へ。あま投して。これとあはる。僕も武
帝の時。長幼の歐回。と云ふもの。海濱とことり。一
人奉りて。之周大吏と名あり。回は謂て。いづく。我
毎年。赤く。れく。ゆ。ま。物。入。日。塩。く。り。流。在。昔。に
般。珍。の。ま。め。日。その。食。相。成。ぬ。と。傳。る。今。す。り。
後。棟。樹。の。葉。瓜。の。く。う。の。と。は。け。み。又。又。女。
糸。も。く。結。へ。し。これ。二。物。を。般。珍。の。お。う。海。前
と。し。り。今。目。標。と。う。ふ。ゆ。は。も。より。起。ま。り。を。後。大
月。令。廣。義。よ。ハ。屈原。が。婦。女。難。と。れ。と。は。け。り。く
屈原。を。吊。ひ。け。り。し。志。あ。せ。り。され。た。た。の
二。夜。お。の。く。高。延。か。り。伝。用。と。は。よ。ま。し。ん。
周。文。の。風。去。紀。よ。し。は。ハ。菰。葉。と。ん。て。稻。米。と。つ
こ。灰。汁。と。ん。て。糞。て。糶。と。ん。た。これ。陰。陽。包。裏。
て。未。分。交。せ。と。は。よ。う。と。と。な。と。傳。り。是。か。ん。ふ
伝。か。し。ん。一。陰。中。に。有。る。陰。陽
包。裏。し。て。い。ま。の。か。を。世。に。

楚の傳と云。越王勾踐より起る。新楚歳時紀
競渡 十二

云。八月又日。屈尔旧。死よ投ず。人そ死を傳て。並
よ舟楫とんて。これをこころふ。周て。吹く俗とれる。
歳華。死曆の云。句。踐よ。ころく。数月とれる。西
と極て。俗とれる。孰。事。お記。取。下。す。

伏日 十三

史記。秦徳云二年。初く。伏して。い。く。盡とふせ。
く。る。康。く。云。六月。伏日也。周の。時。う。ん。か。り。秦よ
きて。あ。さ。り。り。六月。二。伏日
の。事。あり

七夕 十四

桂陽城の武下と云。その。伝。術。あり。も。身。よ。纏。て。云
七月七日。織女。南よ。云。河と。流。く。入。く。牙。伺。て。い。く。
織女。何。ゆ。ふ。り。河。を。流。く。養。て。曰。織。女。志。が。く。く。業
牛。に。む。り。漢。の。時。也。世。人。今。も。む。り。て。織。女。奉。生。は。伝
家。を。や。云。續。齊。傳。記
五雜組。よ。元。織。女。牽。牛。め。る。り。并。傳。記。も。始。り。武
下。が。高。云。み。む。り。り。博。物。志。の。案。槎。の。渡。伝
よ。さ。り。り。此。も。一。の。子。歳。乃。後。婦。人。女子。此。傳。て。口
實。と。と。海。を。可。也。文人。墨。士。習。て。書。後。と。し。

天とこれ列宿と一して横は河漢の如く波
ひあふ又あわしむるの甚しき也と志す也。
保は確論と云はれり

中秋賞月 十一

此夜月分秋分。李唐の世より盛みしく詩
人文人其詠多しと云はれり。右樂府は婦人
あり。漢人の中秋此月なればしめてはと
と何れ時か。漢の世よりとあるもや。林羅山

重陽 十六

汝南の桓景と云ふもの。費長房は逸とす
と。或時費長房桓景よりていらく。今九
月九日自酒が家より。緋囊とぬひて中
葉黄ととり。臂よりけりて菊酒とのま
此葉清すべし。桓景その言と信じて。父
くせしに。身は病なく。家中は難く
平をく死せり。其房これとす。此れ命
よめられり。後漢の世より人九日
心りやると酒とのま。婦人葉黄とす。此

流く人。後科考見

此院室あり。伝どく人。又雜組よ。九日菜

菓を佩きよ。むらじ。花鹿とのむ事。お傳く

貴長房植京。実伝。西御と。て。て。そ

の素油。これ。九。西京雜記。威。夫。今。竹見

賈佩。京。中。よ。わ。り。て。九月九日蓬餌。と。合。ひ。是

れ。酒。とのむ。の。酒。と。れ。人。を。て。也。あ。お。じ。

と。け。り。あ。り。て。て。も。也。と。き。り。と

作。は。僕。の。初。と。て。よ。ひ。り。わ。り。植。京。よ。り。

ま。し。と。也。

○今。梅。ど。あ。も。と。正。經。年。七。夕。重。陽。ハ。古。り。頃

と。あ。り。俗。也。古。人。の。死。よ。り。て。これ。と。考。る

也。に。さ。お。り。陽。月。陽。の。日。也。れ。陽。代。あ。い。法。と

初。り。と。し。と。や。又。と。己。の。軀。體。智。生。代。終。七。夕

乃。索。葛。室。陽。代。菊。酒。ハ。皆。を。さ。あ。お。な。お。成。よ。也

と。司。も。そ。自。の。佳。美。と。祝。す。あ。り。と。

七十。冬。至。十一月の中と云。融。霜

通。曆。よ。云。地。皇。氏。十一月と云。て。冬。を。と。ん。玉。燭。室

驅儼 二十

礼^レ緯^レ子^ノ。多^ク陽^ノ氏^ノ三子^ノあり。世^ニて亡^ニぬ。後^ニ日^ノ疫^ノ鬼^トと
 か^ハ海^ノ一^ノハ^ノの^ノあり。中^ニに^ニ居^テ瘡^トと人^ノを^レ残^シ。一^ノハ
 宮^ノ室^ノ區^ノ隅^ノの中^ニに^ニ居^テ。少^ク小^ノ鬼^トと^レ多^ク人^ノを^レ食^フ。こ^ノと
 一^ノく^ノ年^ノの^ノ十二月^ノ。紀^ノ官^ノ本^ノに^レて^レ儼^トと^レび^ク
 疫^ノ鬼^トと^レ死^ニと^レり。按^ズ海^ノ島^ノ。周^ノ礼^ノと^レ大^ノ儼^トあり。
 漢^ノ儀^ノと^レ儀^ノ子^ノれ^ノあり。と^レれを^レ以^テと^レん^ニて^レは^レり。
 黃^ノ帝^ノも^レ始^メり^トし^レと^レも。大^ノ抵^ノ周^ノより^レを^レも^レり。
 周^ノ官^ノの^ノ儀^ノの^ノ方^ノ相^ノ氏^ノも^レ命^シじて^レ百^ノ隸^トと^レ率^シて^レ

宮^ノ中^ニと^レさ^レり。疫^ノと^レ驅^テて^レと^レれを^レ逐^テと^レり。則^チ儼^ト
 儼^ト乃^チ始^メ也。以上^ノ事^ノ物^ノ紀^ノ原^ノ

正五九月 十一

雲^ノ禁^ノ漫^ノ抄^ノの^ノ云^フ。祝^ノ氏^ノ智^ノ薄^ノの^ノ云^フ。天^ノ帝^ノ祝^ノ氏^ノ大^ノ儼^ト漢^ト
 と^レひ^テ。曰^{ハク}大^ノ神^ノ則^チと^レ照^シて^レ人^ノの^ノ善^ノ悪^ノと^レ察^ス。正
 五^ノ月^ノハ。南^ノ曠^ノ部^ノが^レと^レし^レ。二^ノ六^ノ十^ノ月^ノハ。東^ノ海^ノ照^シ
 一^ノ。二^ノ七^ノ十^ノ一^ノ月^ノハ。西^ノを^レて^レし^レ。曰^{ハク}八^ノ十^ノ二^ノ月^ノハ。分
 水^ノと^レて^レし^レ。唐^ノ志^ノ宋^ノも^レ教^トと^レ累^シが^レり。凡^ノ日^ノ正^ノ五^ノ九
 月^ノハ。葷^ノと^レ食^フと^レ禁^ジ。百^ノ官^ノ羊^ノ錢^トと^レ支^ス。

ど。今よむむりまて改めんを以て唐よ始る。

今按アヒどアヒかアヒのアヒ既セツよりして考カウまカウハ。正アヒ又アヒ九月

と拘カウ忌アヒより唐より始る。あうれた釈シヤク氏シ智チ備ヒ大

既マシ甚ハシ矣タシ。従タシみして少シもより其カ理リ成セるレん

人ハキヨかセツくキヨ虚セツ既セツよキヨかセツまキヨよりキヨ始セツるキヨん

唐エイ太宗ヒンの英エイ敏ヒンなり。あアヒんアヒぞアヒのアヒ迷マヒれアヒん

や。雲ウン禁キン漫マン抄セウの既セツりセツがセツ。さアヒめアヒとアヒ天テン帝テイ釈シヤク大

寶ホウ鏡キョウとアヒいアヒくアヒ曰イハ大ダイ川センとアヒてアヒ。あアヒよアヒとアヒ云クニふアヒるアヒ

とアヒかアヒたアヒ仍イッたアヒりアヒ。とアヒいアヒてアヒ又マタのアヒよアヒりアヒとアヒせアヒばアヒど

の正アヒ又アヒ九月アヒ。君キミおアヒあアヒりアヒてアヒ。あアヒのアヒ風フウのアヒ

風フウよりとせまアヒ。地チのアヒ風フウのアヒとアヒなアヒして

とアヒいアヒてアヒ。思オモふアヒるアヒのアヒあアヒれアヒぬ

ひアヒくアヒ。天テン帝テイ釈シヤクあアヒんアヒぞアヒくアヒ。人ヒトのアヒ欺アヒをアヒ

ひアヒやアヒとアヒなりアヒ。

居處門 第四

宮 廿二

易繫辭エキケイジよりいふ。上古コトコトより元居ハクて地チを居イはせニて
の聖人セイジンこれよりあつた宮ミヤと云ふ。棟ムネととら
し。宇ウととらみし。ていふて風雨フウウを約ヨクとわり。も黄帝クワダイ

のよりいふ。黄帝クワダイに傳ツふも云。帝テイ。宍シク尤ユと云ふ。周シュウて
宮ミヤと建タツ。襍ザツ天子テンシ傳ツふも云。崑崙コンロンよりわたり。黄帝クワダイの宮ミヤ
と云ふ。白虎ヒヤクコ通ツふも云。黄帝クワダイの宮ミヤと云ふ。他カシとて
皇レヨと云ふ。とていふ。宮ミヤは黄帝クワダイのよりい

中ナカの世セに云。堯帝ギョウテイ。禹ウとて文モンと云ふ。此コノよりいふ。
あつた。わりの。黄帝クワダイの時の制セイと云ふ。あつた。と
云。事コトお紀キの下の

殿 廿三

史記シキより秦シンの始皇シヤウワウ。朝チウ宮ミヤと云ふ。南ナンより北ホクへ
殿テンの阿房アバウと云ふ。高カウと云ふ。天子テンシの殿テンと云ふ。あつた。
を。則ソクて秦シンの孝公キヤウコウのよりいふ。秦シンの時トキより始ハジめ
る。殿テンといふ。秦シンの時トキより始ハジめ

堂 廿四

史記

卷之三

廊 三十一

漢武策よ。穿遊巖廊とゆふ。唐虞よりけり。

屋 三十二

淮南子曰。穿築牆茨屋。新也。堯舜の民を
比屋みして封をへしと有り。易曰。栝公は
穿を下る民と有り。其帝の時。乞を板おる屋
といふ名ハ堯舜よりし。

厨 三十三

帝王世紀よ。帝大臯。穿厨の礼と制し。犧牲と
ぬてゆく。庖厨は傳ふ。以厨の始也。

庫

説文よ。庫ハ兵器と貯る所也。金帛と

商鞅が書よ。曰。湯武の湯武。桀を破て以

庫と爲る。又兵と貯じ。大庭の庫あり。庫の始

也。後世ハ統後と爲る。穿と庫と云

倉

鄭康成曰。倉ハ穀を貯る所也。倉と庫と

孟子よ。倉。穀也。倉と庫と。倉と庫と。倉と

庫と。倉と。劉と。倉と。倉と。倉と。倉と。倉と。

去高の付動止と云。周は警晏と云とあるせり。

廁 四十一

礼儀は。隸人温廁とりと云。とて周の御也

廁の名あり

潜 四十一

墨子云。堯の付土潜ニ入茅茨不翬。韓詩外

傳云。鳳日伏蔽ておる。黄帝赤潜ニ入。と云

と云。則潜潜乃制ハ。黄帝栝宇とかせしと

云と云れあり。

墻 四十二

淮南子云。舜登と化ト。墻と築と。登と夜。人

をして高穴と云。高穴と云と云。高穴は。室也。と

云と云。のめ人。是墻の始也。

庭 四十三

列子曰。黄帝大を館とせり。楊子法言曰。田。

鳳鳥登と。西。堯之庭。は庭の名也。始也。

藩籬 四十四

易經大仕の九三云。羝羊觸藩。退且咥。藩ハ籬也。

周礼也。校人良馬と頒てらん。養む事あり。と書あり。
系る三系を卑。三阜と繫。六繫と既。
とん。六既校とあんとりり。も既と名はく。既と
始也。又周礼也。天子ハ十二周。邦周ハ六周とあり。
周ハ開廐の制ハ則周よりり。周ハ馬圃也。一圃
ハ二百十六匹あり。

東晋の大將軍趙固。固ハ秀ハ子。暴ハ死す。固
軍これを起し。む事あり。郭璞。これをゆて
記。これを生えんとし。數十人を。て。等を。し。

一。め。東。又。行。り。三十里。り。て。一。秋。を。は。く。り。を。取。
猿のぬ。し。指。ゆ。て。る。の。あ。る。を。彼。就。鼻。を。以。て
る。を。吸。け。る。よ。る。起。て。躍。り。あ。の。ぬ。し。為。軍
志。悦。べ。り。今。猿。猴。を。以。て。る。廐。の。か。ら。出。し。て
より。起。ま。り。と。獨。矣。志。又。出。り。事。言。要。物。集。二。引。之。

行馬 二十九

三代より。周礼。よ。これ。を。桂。板。と。書。晋
魏。より。後。も。友。乃。家。よ。は。も。門。ハ。行。る。を。役。に
し。と。ゆ。り。さ。ゆ。又。相。黨。と。名。は。く。三。才。圖。繪。

簪 又十三

桓寬が塩鉄傷うう云。禹のちん法治めり。時簪と墮
してたり。足指の爪とわり。簪乃ちうらうらめく
らみ足くまらり。女媧の女。斧とゆりて髪と実
しより。簪うらうまれり。髪は則冠嬰とゆれ
り。くわこゆかろん。

纓 又十四

董巴が輿服志うう云。上古よりハ毛と衣。ハハ
帽とん。後代の聖人。為歎の冠角。纓胡とんく

冠見纓縷とゆり。淮南子もも又く。れ少く志り
せり。沿草も云。唐虞よりハあハ。布冠みりく
縷なり。元とハ纓ハ堯舜より始りあり。

頸巾 又十五

いりハ。皂纒ハゆり改法。ゆり。それを改巾
と号す。茶毘獨紗も云。古の幘。髪をつむ。ハ巾
なり。王莽が汎禿なり。ハ。躬始て巾ハ綴と。

衣裳 又十六

通典ハ云。上古よりハ毛と衣。後代麻とゆり云

よのふ。易イといふ。黄帝衣裳イをイして天下イは

元。世ニも。朝曹ニ衣ニをイ他ニり。宋ソウ衰シがイ胡曹コのイ。淮ワイもイよニ

曰。伯余ハクヨ始イてイ衣ニ衣ニ他ニり。漢ハンのイ。一ニはイ伯余ハクヨ則ニ黄帝ワウテイ也。

又曰。伯余ハクヨ衣ニ衣ニ制ニと。家カ也。孔子コウジのイ。黄帝

始イてイ衣ニ衣ニをイる。

衰衣シイ 又十七ニ。天子テンシ也。

素始ソよイ。黄帝ワウテイ畫エとイて。日月星辰ニをイる。

と。象ゾウてイ天テンのイ。衣イのイ。衣イのイ。

黄帝ワウテイ内傳ナイデンよイ。帝テイのイ。代ダイのイ。衣イ。

と。服フクをイ。十二ニ章シヤウとイる。

十二章の章シヤウは。洋ヤウ。

被ヒ 又十八ニ

衣イのイ。衣イのイ。衣イのイ。

衣イのイ。衣イのイ。衣イのイ。

衣イのイ。衣イのイ。衣イのイ。

衣イのイ。衣イのイ。衣イのイ。

衣イのイ。衣イのイ。衣イのイ。

禘テイ 又十九ニ

漢帝内傳。王母。帝乃其母也。七寶也。其の底と
は。ね。華直。降。走。此。縛。と。友。と。わ。さ。を。新。く
ハ。此。二。也。也。その。ど。ろ。と。か。し。ん。

雨衣六十

奉始。の。云。凡。る。の。ハ。周。の。時。と。て。ふ。あり。た。竹。の
陳。來。子。製。と。き。て。支。伏。と。あり。杜。預。の。注。り。
製。ハ。の。衣。と。あり。矣。穀。子。の。云。惟。消。ハ。油。と。て
これ。と。洗。之。油。帽。と。又。が。れ。陳。乃。内。より。始
て。也。あり。

蓑衣六十

二。玉。の。時。劉。馥。合。肥。と。ち。り。け。た。也。草。に。穀。子。と
あ。と。製。ぬ。織。ぬ。糸。と。て。印。の。の。草。と。い。く
疎。を。復。也。軍。士。也。蓑。衣。と。い。く。蓑。衣。こ
と。り。の。也。内。の。高。分。也。

腰帶六十二

實。録。の。云。古。より。以。年。帶。及。揮。舞。の。あり。秦。二
世。も。也。也。始。と。腰。帶。と。名。を。た。す。也。秦。也。紀。原。下。曰

袴六十三

史記曰。屠岸賈趙氏と滅と。趙朔が妻に
孕めり。産み男子とらむ。屠岸賈これを求む。
夫人を袴中より産み取り。その名を姑くこつり
す。也。其後よと。と女を食ひ。後以て
袴と名づく。今或士乃きり大は
袴袴ハ。魏文帝馬と名づく。袴也。

魚袋 六十回

突録の云。二代より鞞とめてこれと名づく。これを
魚袋と云。魏の時これを易て魚と名づく。唐の
紀海魚と賜ふ。云。およりこを飾金以て
て。又おより。も飾衣と名づく。成は魚
袋と名づく。

袴 六十八

唐令要う云。袴ハ周の制也。武王の時これをと
服れ。然侯の象と名づく。大まハ魚鱗士ハ作と名づく。
晋宋よりこのし。道を名づく。魏より
後。ハ名こし。通して。武徳に
月六日 唐の紀 報して。ハ象の物。六

以下、竹木の笏を用いた。

鞮 六十六

文帝の朝。文帝乃景との時、鞮係解とあり。此は高の時にてふあり。文帝よ。三代よりこれし。これあり。これと角鞮と云。前後よりこれ。右方よりお水。中より帯と云てこれと云。魏文帝の呉妃よ。始て裁縫してこれと云。

履 六十七

世なり云。干則麻履と云。宋衷が云。干則ハ。麻履と云。麻皮と云。麻皮と云。此は麻を履と云。其流の云。三代ハ皆皮と云てこれと云。

屨 六十八

草履也。唐諫の云。麻草履也。黃帝乃始於則の造り也。世ハ亦云。於則麻履と云。其深の云。始て二年。始て履と云。履と云。

履 六十九

吳苑の云。介之推本以抱木燒死。晋文公と云。孔子と云。切て履と云。履と云。

拾遺シヨクイ江カハより云ク員ウヰン濤マヤツ山サン乃ハ環カン丘キヤ且ヒヨ氷ヤ蠶サンわり。新シモ政カク、
後ウチ繭マユとカハレ。こノミミ又ゴ采サイ也。唐タウ堯ヤウ乃ハ世セ海カイ人ジン綿ミンと
織オリてツくクこれとカ放タシる。故コ代ダイらレれハ知チてス。又マ色シキハ
糸イトハマてテ織オリて綿とス。又マ色シキハ

繡 七十五

書シヨ論ロンハ舜ジュン禹ウハ令メイして曰予ヨ古コ人ジンハ象シヤウノ人ジン
と歌ハレ日ニツ月ゲツ星セイ辰チン山サン龍リウ華カ蟲チュウ雉チハ忠チュウくクとシと
亦マハ家カ彝イ虎コ雉チ藻ソ多タ火カ粉フン米マイ在在米マイ黼フ黻フクの
黻フクハ緋ヘイ繡シウ也。又マ采サイとハて彰且チヤウ又マ色シキハ

采サイハ服フクにシて人。海カイ内ナイハ世セノ正テイ義ギ也。
舜ジュン禹ウとシて繡とシて之ハ比ヒ又マ終シュウ乃ハ教キョウとス。又マ色シキハ
明メイ且チ又マ色シキとシて之ハ衣イ服フクとシて初也。とハ帝テイ舜ジュン
亦マハ繡シウとシて之ハ也。

纈 七十四

二ニ儀ギ矣ヤ。祭サイ漢カン乃ハるハ纈ケツ也。人ジンノ也
也。又マ色シキハ
五ゴ采サイ 又マ色シキノ 七シチ十八ハチジュウハチ
易イハ夏カ帝テイ。堯ヤウ舜ジュン。衣イ裳シヤウとシて之ハ乾ケン坤コンとス

乾坤又わらす人則又象ハ衣振ハみれく
ふんを

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

内官位門 第六

爵 七十六

公侯伯子男。これと爵とを比え。又爵ハ光輝あり
く。終合文嘉り云。殷の爵ハ三等。周ハ八
等。或黃帝又等と云とあり。も爵ハ格ありん。事也

官 七十七

崔寔が正論云。大昊の世。九庖の官と役く。後水
終焉あり。則終と以て友に比と。た傳よりく
子。郊子。藩也。官と役。初ハ伏羲氏

且も世に治く。唐虞の如く官と建し。准百。
元は歴代百官と稱し。

品秩 七十八

小魏の文帝。康元年。陳群と云り。九。九。友
人。此。治。と。立。少。封。好。の。く。正。徒。と。う。つ。せ。し。め

し。し。と。れ。ハ。品。秩。ハ。系。ハ。魏。の。陳。群。と。り。始。り。

諸侯 七十九

帝王世紀。女鳩の討い。し。法。侯。わ。り。突。
帝。の。討。法。侯。風。少。氏。叛。く。と。あり。突。帝。徳。

と。修。り。く。風。の。民。の。く。し。し。と。り。改。む。

元。は。侯。と。と。て。土。と。の。と。突。帝。と。り。始。り。

加牧 八十一

黄帝に監と立て。以て方。少。以。治。む。舜。の。討。の。
國。の。加。牧。侯。伯。あり。則。加。牧。乃。始。り。有。虞。氏

より。か。ら。始。り。

大守 八十一

秦の討。郡。と。と。漢。景。帝。と。及。て。名。と。大。守
と。及び。大。守。の。名。と。れ。し。り。と。し。今。名。始。

三、云、八十一、二

書經乃周官也。大傅、大保と、ふの。茲惟二
公とあり。是二云の始也。事物紀原

危若桐八十一、三

通典も。成湯始て二相とを。伊尹、仲虺といひ、
はれとあり。伊尹と阿衡と。仲虺と、
とあり也。事物紀原。伏羲二おとを共ととお
し。抱負と、おと。天下とありあり。
られおと今十の始也。古今源始

宰相八十四

昔周公、冢宰と、後、百工と、正して、
と脚く。あり、宰相の稱あり。も、事、秦漢より
。陳平、宰相と、天子の佐
くと。是也。事、紀、原、下、曰

大將軍八十二

戦國の時、始て、大將軍の号あり。

將軍八十六

周礼も、天子ハ六軍。一軍ハ一万人、又百人也。

始皆命卿也。由は在てハ大吏と稱し。軍中ハ
 志くハ將軍と稱し。晋欽云。より二軍トカ人。
 云。のう。上軍ハ。成ハ。軍ハ。名。
 云。の。左傳ハ。同。波。出。寬。も。魏。欽。子。
 謂く。軍。人。

諫官八十七

晋始て。練。友。と。至。傳。玄。劉。毅。官。南。陶。と。以。く。
 云。と。云。人。好。古。素。す。り。司。馬。溫。云。保。院。題。名。記。云。古。
 漢。與。軍。始。云。云。保。院。題。名。記。云。古。漢。與。軍。始。云。云。

致仕八十八

書。經。乃。咸。有。一。道。云。伊。尹。と。ぞ。又。改。り。と。その。
 辭。ハ。復。し。て。改。り。云。告。疏。ハ。い。ら。く。志。と。云。く。
 改。り。と。云。ハ。改。り。也。ハ。下。致。仕。乃。始。也。周。ハ。
 云。く。ハ。公。之。更。七。十。六。一。て。致。仕。の。礼。あり。云。云。云。
 云。伊。尹。と。り。始。也。

中華事始卷之二終

